

(Q13) 体細胞クローン牛の枝肉調査を実施したと聞いたのですが、その結果は、どうなっているのですか。

1 独立行政法人家畜改良センター十勝牧場で作出された4つ子の体細胞由来のクローン牛（黒毛和種去勢）について、平成14年10月3日に肥育試験が終了し、枝肉調査が行なわれました。調査結果は下記のとおりであり、生体検査及び解体後検査（頭部検査、内臓検査及び枝肉検査）において、肥育牛に見られる腎炎の軽度のものが3頭にあったほかは異常は認められませんでした。枝肉形質については、統計的なバラツキ具合を示す変動係数（自然界では通常10%程度）が、枝肉重量2.3%、バラ厚3.9%、ロース芯面積5.3%と低く、ロース芯等の筋肉の形状や筋間脂肪の分布も互いによく似通っており体細胞クローン牛個体間の相似性が示唆されました。

○枝肉の調査結果

	CL去1	CL去2	CL去3	CL去4	(参考)体細胞の提供牛(ドナー)
生年月日	H12. 9.11	H12. 9.12	H12. 9.12	H12. 9.12	H10.10.28
生時体重	44Kg	44Kg	44Kg	35Kg	26Kg
肥育期間	17ヶ月 (72週)	17ヶ月 (72週)	17ヶ月 (72週)	17ヶ月 (72週)	17ヶ月 (72週)
肥育終了時の体重	782Kg	800Kg	782Kg	824Kg	771Kg
枝肉格付	A-4	A-5	A-4	A-5	A-4
枝肉重量	486Kg	499Kg	483Kg	512Kg	459Kg
BMS	No. 7	No. 8	No. 7	No. 9	—
ロース芯面積	51cm ²	54cm ²	48cm ²	55cm ²	—
バラ厚	8.1cm	8.9cm	8.3cm	8.8cm	—

2 なお、体細胞クローン牛の枝肉等については、Q15の2の⑥に基づき、出荷・販売は行っておりません。